

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	空飛ぶ三輪車・秋津保育所
施設所在地	東京都東村山市秋津町4-30-3
法人名	NPO法人 子ども自然探検隊 空飛ぶ三輪車

1. 活動のテーマ

<テーマ>

秋の実りを楽しむ③ 稲わらに触れる

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

当保育所では4, 5歳児になると一年を通して米作りを行う。秋は収穫の時期であり、稲刈りを行った後に脱穀し、お米は給食で食べると稲わらが残る。稲わらから縄が縄えたり、草鞋ができることに子どもたちが興味を示し、難しい縄を編むことに取り組んだことから、藁の利用を調べ縄やしめ縄など実際に作って古来より日本人の生活に欠かせない縄ないの文化を探究しようと考えた。

2. 活動スケジュール

10月～11月 脱穀を行い、粃摺りもする。脱穀した藁を使って縄をなう。できた縄で縄跳びしたり、芋がらを干したり活用する。

12月 講師を招き、しめ縄のワークショップを行い職員が学んだ。後日子どもたちにもしめ縄を作り方を教えた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ブルーシート
- ・記録用パソコン
- ・しめ縄作りについて教えてもらうため外部講師を招く。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①園庭の田んぼで育てたお米の脱穀を行う。行った後、グループごと粳摺りと縄ないを行う。縄ないは大人に教わりながら、出来るようになった子は他の子に見本を見せたりした。
- ②縄を長く作ってみて、縄跳びや飾り作りなど活用方法には様々ある事を図鑑などを使って調べる。芋がらや干し柿を干すために使う。
- ③しめ縄作りを外部講師に職員が教わり、正月の飾りを子どもたちと作ってみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ・年長の男子は縄ないを習得したいと大人に教わって、時間をかけて理解し「あ、僕分かった、ねじりながら回すんだ!」と嬉しそうに気づき他の子にも教える様子が見られた。
 - ・「縄とび」の縄がお米の藁からできることに気づき、短いひも状のものを組み合わせると長いものができると知った年長児は野外保育先でもつるなどを組みあわせ長い紐を作って他児に見せていた。
 - ・しめ縄飾りを作ってみると、「わらってきれいだね」「私も作りたい」と実などを付けて楽しむ様子も見られた。

写真は3ページ目に添付

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「縄ない」という幼児には一見高度な技術に見えることは、子どもたちの興味から発した取り組みだった。はじめはできなくても大人のように縄を作ってみたい、という思いが強く1日では終わらず数人のグループで何日もかけてできるようになっていった。古くから日本人の生活に使われ、線状の藁が紐にも面にもなっていくこと、具体的には草鞋や傘、蓑などどに活用されてきたこと、この技術を知っていれば昔は生活のほとんどが賄えたことなどを知り、現代では習得している人が減っており、非常に大事な文化であることに職員も改めて気づかされ、子どもと一緒に体得できたことは、今後の保育の展開も広がる大きな収穫であった。

空飛ぶ三輪車・秋津保育所

すくわくプログラム

2024 年度 活動報告 添付写真

秋の実りを楽しむ③

稲わらに触れる

